

豊かな自然を守る

生物多様性とは

生物多様性とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生き物は40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生き物が生まれました。これらの生命は一つ一つに個性があり、すべて直接的・間接的に支え合って生きています。

■本市の自然環境

本市には、国定公園である鈴鹿山系の樹林、丘陵地の里山、河川や湿地、吉崎海岸など、多彩な自然があります。しかし近年、開発や外来生物の侵入など、さまざまな要因により、その多様性が失われつつあります。



冊子「よっかいちの自然 第1集 丘陵地や山地の林」

本市の自然の現況を適切に把握し、皆さんに身近な自然に親んでもらうため、自然環境をまとめた冊子を刷新・発刊しました。市ホームページ（[HP](http://www.city.yokkaichi.lg.jp) ID 1536889101682）で閲覧できるほか、市政情報センター（市役所北館）やそらんぼ四日市で、600円（税込）で販売しています。

数年撮りためていたものや新たに撮影したものなど、冊子には多くの動植物の写真を掲載しています。この冊子を読むことで“自然を見る目”を養う助けになると思います。

刷新前（24年前）と比べ、自然環境は変わりました。自然を放置しては、消えていく一方です。これからは積極的に守り、再生していく必要があると考えています。

四日市自然保護推進委員会・よっかいちの自然編集委員会
木村裕之さん



●放置された竹林



竹は放置すると増殖し、他の植物を枯らせたり、畑や家にまで侵食して来たりします。

●シカによる食害



昔に比べてシカが非常に増え、口が届く高さまでの植物が食べ尽くされてしまった場所もあります。

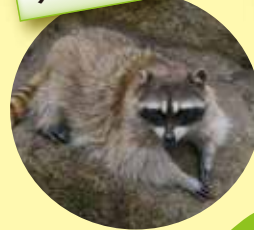
ある生物が減少するなどして生態系のバランスが崩れると、生物多様性が失われるだけに留まらず、私たち人間の生活へも影響を及ぼす可能性があります。「生物多様性」は他人事ではなく、私たちの生活に深く関わるものなのです。まずは周りの自然に興味を持ち、“自然を守る”ということについて考えることが大切です。



特定外来生物

もともとその地域に生息していなかった生き物で、人間の活動によって外国から入ってきた生き物を「外来生物」といいます。その中でも、特に生態系や農林水産業、人の健康などに悪影響を与える外来生物を「特定外来生物」といい、飼育・栽培・運搬・販売することや野外に放つことなどが法律で禁止されています。

アライグマ



ヌートリア



アライグマとヌートリアを捕獲するため、通報者の協力の下、箱わなの設置を行っています。詳しくは環境保全課へお問い合わせください。